

せんべい状に延ばした形を立てて！

—— 凹凸模様を生かした愉快的仲間たち ——

表現内容の要素と発想の視点

- ・表現材料：テラコッタ粘土
- ・造形要素（色、形、材質）：
せんべい状の不定形を立てて、凹凸模様の材質（感）
- ・表現技法：板づくり、型押し、擬人化
- ・表現様式：抽象形
- ・表現対象／主題：人物、仲間の組み合わせ／表現者が思考、追究、決定する



写真1「わらじ君たち」[約1230℃焼成／透明釉]（高さ約5～7cm）

造形発想と表現について

ピンポン玉程度の粘土の塊をつくり、任意に押ししたり叩いたりしてせんべい状に延ばすと円形や楕円形などの不定形が生まれる。

粘土を延ばすとき、叩きあとや布目、型押しなどで凹凸模様を表面につけて材質感／触感を出しておく。

表面に凹凸模様をつけたせんべい状の不定形から発想し、それらに粘土べらで目や口をあけたり、顔の表情をつけ加えたりする。それらに台をつけて立てると素朴な生き物（人物、仲間）が生まれる。

不定形や材質感の特徴や面白さと擬人化を活用した発想からの造形表現である。

また、一体では迫力がないが、何体かつくって組み合わせ「仲間たち」にすると小さいものも全体として楽しい表現になる。形を組み合わせた表現の迫力で、これも造形に対する考え方であり、ひとつの発想方法でもある。

粘土はテラコッタを使った。

用具／材料

テラコッタ粘土（約300g）、どべ、粘土板、粘土べら（各種）、粘土切り針、布（綿布／麻布ほか）、筆、どべ入れカップ、雑巾ほか

表現のプロセスと内容

●テラコッタ粘土をピンポン玉程度の大きさの塊に丸める

- ・円形や楕円形、長楕円形のものなど、でき上がるおよその形をイメージして塊をつくる。(写真2)

●布の上に粘土の塊を置き、上から布で覆って手のひらで押したり叩いたりしてせんべい状に延ばす (写真3・4)

- ・厚さは0.5～1cm程度である。
《できたせんべい状の不定形をそのまま生

かして使う。また、自由に形を切り抜いて使うこともできる。》

- ・麻や綿などの布目模様を粘土の表面に写し取る。凹凸がはっきりと模様として浮き出るような素材を使うようにする。

《布以外にも凹凸模様があるものを見つけ、粘土の表面に写し取ると楽しい表現になる。》(写真5)

《ちなみに「写真1」の「わらじ君たち」は靴底の模様である。》

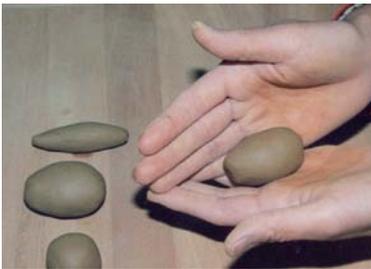


写真2



写真3

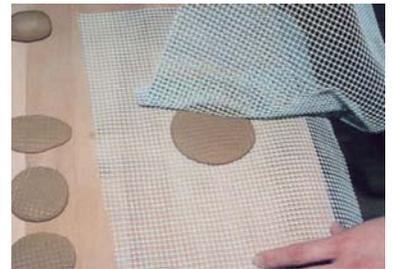


写真4

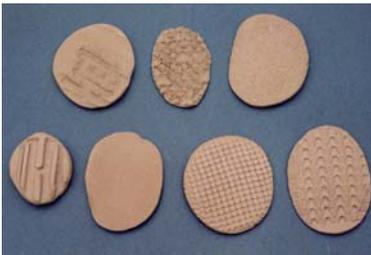


写真5

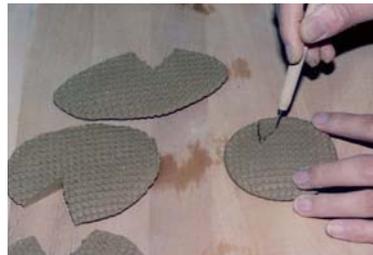


写真6



写真7



写真8



写真9



写真10

●せんべい状の形を自由に切ることもできる

- ・粘土を切り取る時は粘土切り針を使う。
(写真6)

●台を作ってせんべい状の粘土板を立てる

- ・粘土を丸めて円錐形の台を作り、中心に切り込みを入れる。(写真7)
- ・切り込みにどべを塗り、粘土を挟むようにして接続する。(写真8)

●目や口をつくる

- ・目は粘土べらで穴をあける方法と、粘土をつけ加える方法がある。(写真9・10)
《穴をあけるとポッカリと黒目をあけた埴輪のような素朴な表情になる。》

- ・目の位置や形で表情が変わるので工夫する。
《目の玉や鼻などをつけ加えるときは、どべを塗ってしっかりと押さえてつける。》

●作品(仲間)の形や表情は、全体として並べたときのバランスを考える

- ・仲間に数は特定するものではなく必要に応じてつくる。
《自由に並べかえて遊ぶこともできる。》



写真11 成形が完成した作品

表現のバラエティ



写真12 完成作品「コーラスライン」〔約980℃焼成／無釉〕(高さ約5～8cm)



写真13 完成作品 目をつけ、口を切り取って! 「いどばた会議」〔約980℃焼成／無釉〕(高さ約5～8cm)



写真14 完成作品 凹凸模様をかえると! 「はーい、チーズ」〔約980℃焼成／無釉〕(高さ約5～8cm)



写真15 完成作品 空き缶を使って炭火で焼くと! 「みんな、いい顔」〔約600～900℃焼成／無釉〕(高さ約3～10cm)

制作協力者

- ・東京都葛飾区立白鳥小学校 朝重久美子